

## 2017 年度卒業式 学長告辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご臨席の保護者の方々にも心からお祝い申し上げます。今日はあいにくの雨模様ですが、「春の雨は花の父母」と言われるように、新しい命をもたらすもので、卒業式にふさわしいものだと思います。また、桜の開花宣言があちらこちらで聞かれるこの良き日に、犬山市長 山田拓郎さま、犬山商工会議所会頭 日比野良太郎さまをはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、卒業式を盛大に挙行できますことをうれしく思います。市邨学園名古屋経済大学は、本日、大学院博士課程2名、修士課程53名、学部生338名、短期大学部生51名、計444名の卒業生を送り出すことになりました。この中には4年前に本学が、グローバル化に対応するために留学生を積極的に受け入れる方針を立てた第一期生47名が含まれています。

ところで、卒業生の皆さん、学生時代はいかがだったでしょうか。博士課程は3年、修士課程は2年、学部は4年、短期大学は2年と年数は違いますが、それぞれ一生忘れることができない学生時代を送られたことと思います。

たとえば、47名の留学生のうち、日本で就職することを希望し

た36名は、本学のキャリアセンターと国際交流室の努力もあって全員が日本企業に就職することができました。私が知るある留学生は、入学当初、日本語能力が十分でなかったのですが、授業に真面目に出席し、また、大学祭などの大学の行事に積極的に参加することにより、日本語能力を進化させ、3社からの内定をとることができ、日本企業に就職を決めることができました。彼は、そのことを報告してくれた時に、「自分は何十社と入社試験を受け続けても、なかなか内定がもらえず、苦しい思いをした。しかし、最終的に3社から内定をもらい自信がついた」と明るく語ってくれました。彼の出身の日本語学校の先生が、「彼は顔つきまで変わって、自信に満ち溢れていることが一目でわかる」と喜んでくれたことが印象に残っています。

また、管理栄養学科は昨年、国家試験受験生が52名で合格者18名、合格率34.6%で全国最下位と言う不名誉な記録を作りました。今年度は新しい先生を迎え入れ、受験指導体制を完全に作り変えて臨みました。まだ、正式合格発表はないので、暫定速報値になりますが、受験生は昨年と同じ52名で、合格予定者41名、合格率78.8%という結果を得ることができました。まだまだ発展

途上ですが、合格率の伸び率が全国一位になることは間違いないと思われます。先日、合格祝賀会に参加したのですが、そこで出会った学生の皆さんは、声をそろえて、「この1年間、今までで一番勉強をした」「最初は全く分からなかったが、先生の優しい指導で、徐々にわかってきたときは、苦しいというより楽しかった」「これで自信が持てた」と目を輝かせて語ってくれました。

ここで付け加えておく必要があります。指導をしてくださった先生は私に「うれしさよりも悔しさの方が大きい」と言ってくれました。つまり、「不合格の可能性のある学生の（8－10名の）大部分があと一歩であった」と。今回残念ながら不合格になった卒業生の方もがっかりする必要はありません。本学は、皆さんの合格まで寄り添うつもりで、研究生として無償で受け入れることを決めております。

このように、皆それぞれ違いはありますが、生涯思い出することができる、思い出を作ることができたのではないかと思います。

これからみなさんは、新たな夢を持って社会に出ることになります。何事も初心忘るべからず。今抱いている、わくわく感を忘れることなく社会で活躍をしていただきたいと思います。現代社会は、

科学技術の急速な発展と、グローバル化の急激な展開により、予測不可能な時代となっています。たとえば、ここ中部地方の主要な産業である自動車は、近い将来、基幹部品であったエンジンのない電気自動車となり、さらに、自動運転が可能になろうとしています。これにより、この地方の、いや、日本全体の産業構造が大きく変わるでしょう。また、少子高齢化を迎えて、製造業のみならず、サービス産業までが、日本市場を当てにせず、海外展開を積極的に行っています。たとえば、メガバンクは国内店舗を大幅に整理し、収益の多くを海外に依存する構造を明確にしています。この結果、日本の経常収支の黒字は、貿易収支により支えられるのではなく、企業の海外展開に基づく利益の還元による所得収支の黒字に支えられるようになっていきます。

予測不可能な時代だからと言って、心配ばかりしていても仕方ありません。変動する社会に柔軟に対応し、また、グローバル化にも十分対応できる人材養成を目指してきた名古屋経済大学を卒業する皆さんなら、困難に立ち向かい、それを克服することができるかと確信しています。

そうは言っても、うまくいく場合ばかりではないので、人生の先

輩としてお話ししておきたいことがあります。とくに、大学時代を適当に送って、良い思い出がない人がいるならぜひ聞いておいてください。困難に突き当たった時の心構えについてです。困難に突き当たった時は、「これは天が我に課した試練であると思い（神を信じる人は神が我に課した試練だと思い）」全力でこれに立ち向かうべきだということです。「運が悪かった」とか、「別の会社に行っておけばよかった」とか、「上司が悪い」などと愚痴るのではなく、やまぬ雨はない—必ずや道は開ける—と確信をして、全力で問題解決に当たってください。のちの人生で懐かしく思い出することができるのは、困難に突き当たりこれと格闘したことばかりで、順調に過ごした日々のことは記憶に残らず思い出されません。70を過ぎた老人が言うのですから間違いありません。くじけそうになったら、「これも後には懐かしく思い出されるのだ」と、楽しむくらいの気分で立ち向かってください。今年開かれた冬のオリンピックで、多くのアスリートが「競技を楽しみたい」と言っていました。同じ考えだと思います。何年もの間、夢に抱いたヒノキ舞台で成果が問われる緊張する場面で、楽しめるかと言えば無理かもしれません。しかし、気持ちの持ち方はそうであるべきだと思います。そして、結果がつ

いてくればよし、ついてこなくても全力を出せばよし、ではないでしょうか。皆さんも、全力で取り組んだ結果、困難を克服できなくても構わないと思います。命さえ失わなければ、のちに懐かしく思い出される思い出づくりができたのですから。

次に老人としてではなく、学長として申し上げたいことがあります。努力の結果、どうしても問題が解決しない時は、名古屋経済大学を訪ねてください。名古屋経済大学は、今後、学び直しの機会を提供するための枠組みを充実させる所存です。また、本学のキャリアセンターは、今後、卒業生の転職支援も行うようにしたいと思っています。しかし、安易な転職は認められません。私が尊敬する実業家が「5年我慢できない人は信用しない」と言っていました、私もそう思います。この点は忘れないようにしてください。

さらに、付け加えたいことは、市邨学園は111年の歴史を持ち、大学院、学部、短期大学部の卒業生は、52,166名にのぼり、その多くが現在も社会で活躍しているということです。皆さんはその一員となるとともに、先輩たちとともに、名古屋経済大学を盛り立てていていただきたいと思います。短期大学部の卒業生の皆さんは歴史ある短期大学の最後の卒業生になります。同窓生52,166

6名の半数以上の37,713名が短期大学出身者です。市邨学園の最も伝統ある学部出身であることを誇りにして、社会で活躍をしてください。名古屋経済大学は、言うまでもなく、皆さんを本学の卒業生として学部生と同様に大切にしていけることをお約束します。今年の3月3日に開かれた「市邨学園111周年記念大同窓会」でわたくしは、今後、名古屋経済大学は「卒業生とともに歩む大学」にすると宣言しました。皆さんもどうか我々と一緒に歩いて行っていただきたいと思います。

本日は、本当に、ご卒業おめでとうございました。

2018年3月19日

名古屋経済大学 学長 佐分晴夫